

リーディングDXスクール事業【情活能力育成】

大阪市立姫里小学校

【児童生徒が自立的に学ぶための情報活用能力の具体的な育成実践の例】

目的に応じて、情報を「収集」「整理・比較」「発信・伝達」「共有」できる児童の育成

伝達と共有を行う場面を設定することで、目的を持った情報収集に

目的に応じたソフトウェアと正確な情報の選択を

1. 単元末に、学習したことを活用する場面を設定し、課題解決のための資料を作成する活動を行う。情報の取り出しや加工、貼り付けなどの基本的な操作を発達段階に応じて身につけていく。
2. 伝えたいことを、文章だけでなく図や表、イラストを使ってまとめ、発信することができる。
3. 集めた情報が自分の伝えたい内容か、課題解決に向かうための情報か振り返り、目的に応じて適切に判断できる力を身につける。



ソフトウェアの特徴をもとに活用することができる。

自分が伝えたい情報や使いたい資料を選択できる。

5年 社会科「自動車をつくる工業」

- ① 「日本の自動車作りのよさをまとめよう」をめぐって、情報を収集する。
- ② 資料を共有し、より良いものに修正していく。



プレゼンテーションソフトによって、いろいろな機能があるな。今回はこれで資料を作ろう！

6年 国語「発信しよう 私たちにSDGs」

- ① 学んだことを活かす発展的な学習活動を設定する。
- ② 情報を収集して、伝えたい思いを表現する。



インターネットを使うと、自分ではかきことができない図や表、イラストを使えるところがよいです。

どのような力を育成することを目指して取り組んだか

インターネット検索・閲覧、資料の貼り付けなど、資料作りのための基本的な技能を学年ごとに計画的に育成することを目指した。さらに、学年が上がるにつれ様々なソフトを活用できるようにするとともに、それぞれのソフトの特徴を理解して、自分が表現したいことが実現できるソフトを選択することができる力の育成に取り組んだ。

リーディングDXスクール事業【情活能力育成】

大阪市立姫里小学校

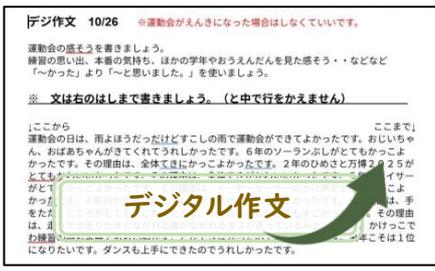
【児童生徒が自立的に学ぶための情報活用能力の具体的な育成実践の例】

情報を収集、整理・分析、まとめ・表現する力の育成 ～9年間を見通した取組～

情報活用能力



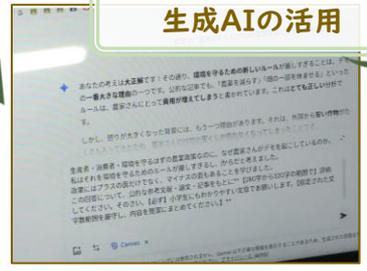
タイピング選手権



デジタル作文



プレゼン作成・発表



生成AIの活用

小学校

中学校

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

1年生

2年生

3年生

教科・学校行事

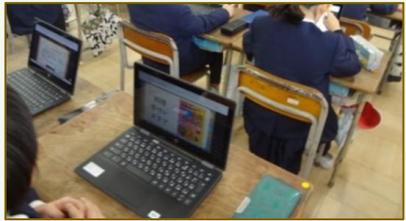
全学年:「タイピング選手権」

校内外の選手権に向けて、隙間時間を活用して、日常的にタイピング練習を行う。



小3:「どのクラブに入ろうかな」

上級生が作成したクラブ紹介のスライドを閲覧し、もっとよく知りたいことをコメントで質問。



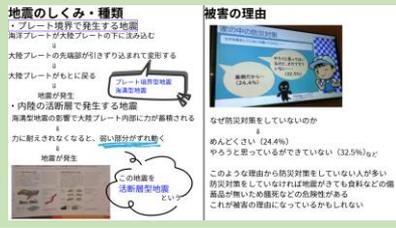
小6:国語「発信しよう 私たちのSDGs」

情報を収集して、伝えたい思いをデジタル新聞に表現する。



中1:総合的な学習の時間「防災について調べよう」

防災について調べた内容をまとめ、発表する。



どのような力を育成することを目指して取り組んだか

小学校で育成された情報活用能力が中学校での学びにつなげられるよう、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現する活動を通して、**集めた情報が自分の伝えたい内容か、課題解決に向かうための情報かを振り返り、目的に応じて適切に判断できる力の育成**を目指した。その結果、**他者参照しながら聞き手の興味・関心を高めようとする姿**がみられた。

大阪市立姫里小学校 第5学年 教科：国語「大造じいさんとガン」

■単元の目標

行動や会話などから大造じいさんの人物像を想像し、考えたことを伝え合うことができる。

■資質・能力が育成され「深い学び」に向かおうとしている子供の姿（第7小単元）

【学習活動の場面】

単元を通して考えてきた大造じいさんの人物像について、「○○な大造じいさん」と表現し、「心情が表れている表現」「行動」「会話」「様子」といった叙述を根拠にスライドにまとめて交流する。その後、AIによる分類をもとにさらに交流を広げ、深める。

【主体的・対話的で深い学びを実現する具体的な学習活動】

【導入】

- 前時の振り返りを確認する。
- 本時の課題をスライドをもとに確認する。



【展開】

- 人物像の手がかりにしようと思う場面を選んで音読する。
- 大造じいさんの人物像をスライドにまとめる。
- スライドをもとにグループで交流する。
- グループ交流をもとに再考し、付箋に「○○な大造じいさん」を入力する。
- AIによる分類をもとに全体交流する。

言葉の力：人物像をまとめよう		
めあて：大造じいさんの人物像をまとめよう		
場面	振り返り	学び
大造じいさんの登場	大造じいさんは、どういった人物像をもち、どういった心情をもち、どういった行動をしたのか？	大造じいさんの登場シーンから、大造じいさんの人物像をまとめよう。
大造じいさんの行動	大造じいさんは、どういった行動をしたのか？	大造じいさんの行動から、大造じいさんの人物像をまとめよう。
大造じいさんの会話	大造じいさんは、どういった会話をしたのか？	大造じいさんの会話から、大造じいさんの人物像をまとめよう。
大造じいさんの様子	大造じいさんは、どういった様子だったのか？	大造じいさんの様子から、大造じいさんの人物像をまとめよう。

【終末】

- ・本時の学習を振り返り、振り返りシートに入力する。

■GIGA端末とクラウド環境の効果的な活用と指導上の工夫

①スライドと振り返りシートをもとに前時までの学習を確認する。
*教科書に線を引くなどしてまとめてきことを確認しながら進めるよう声掛けをする。

②ホワイトボードの付箋をAIで分類する。
*自分の考えと似た人や違った人の考えを比較しながら交流することができる。



③振り返りを入力する際は、友だちの意見について共感したことなど具体的に記述するよう伝える。他者参照できるので苦手な児童も書きやすくなる。

【主体的・対話的で深い学びに向かうための指導の工夫】

物語の叙述から、大造じいさんの残雪への心情を読み取っていく際は、デジタル教科書のワークシートを活用し、好意的な叙述に赤線、敵対的な叙述に青線と分類することで、スムーズな振り返りを促した。



【資質・能力が育成され深い学びに向かおうとしている子供の姿】

AIの分類をもとに交流する場面では、自分の考えと似た意見や違う意見を見だし、より詳しく話を聞こうと主体的に対話する姿が見られた。また、話し合いの中で自分の意図と異なる分類に違和感を唱えるなど、AIの結果に対し批判的に考察する態度も見られた。



大阪市立姫里小学校 第5学年 教科：音楽「和音のひびきを感じ取ろう」

■単元の目標

和音のひびきの移り変わりを感じ取りながら歌ったり、旋律をつくったりすることができる。

■資質・能力が育成され「深い学び」に向かおうとしている子供の姿（第3小単元）

【学習活動の場面】

教科書のデジタルコンテンツを活用してつくった旋律をリコーダーで演奏し、納得できる旋律につくり変える。
フォームに入力した振り返りから自分の学びや友だちのよさを共有し合う。友だちからの感想をもとによりよい旋律をつくり上げる。

■GIGA端末とクラウド環境の効果的な活用と指導上の工夫

①自分がつくった旋律を自分のイメージに合うリズムになるように繰り返し改善していくことを伝える。

*楽譜を見て演奏することが苦手でも、デジタルコンテンツで旋律を確かめることができ、試行錯誤が可能。

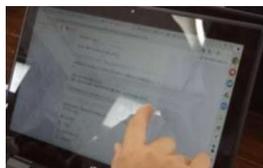
【主体的・対話的で深い学びを実現する具体的な学習活動】

【導入】

- 「和音のひびきの移り変わりを感じ取りながら旋律をつくる」というめあてを確認する。

【展開】

- デジタルコンテンツで旋律づくりを行う。
- 作成した旋律をリコーダーで演奏しながら試行錯誤する。
- 旋律をリコーダー演奏で発表し合う。
- 友だちからのアドバイスをもとによりよい旋律をつくり上げる。



②友だちの演奏を聴いて「よい点」や「工夫」をフォーム使って助言する。
*自分では気づけなかった音楽のよさや面白さに気づくことができる。

【終末】

- 本時の学習を振り返り、フォームに入力する。

どのようなことをイメージして音を選んでせんりつ クラスをつくりましたか、自分の考えを書きましょう。	友だちのつくったせんりつについて、気づいたことや感じたことを書きましょう。	和音のひびきや、それがかつりかわっていくよさやおもしろさを感じ取ることができましたか。	感想を書きましょう。
5年1組 伸びやかな旋律を作ったので、前半と後半の音の上がり方、下がり方を変えてみました。	音が上がっていったり下がっていったりして伸びやかだったり楽しかったりする感じがした。	あまりできなかった	難しかったけれど楽しかったし、もっと作りたいなと思いました。
5年1組 高い音と低い音で迫力の感じ方を変えたかったので高いところと低いところの場所を決めました	自分には発想がなかったおとがありとても綺麗だったなめらかさがあって	よくできた	自分でもよくできたと思ってはんこのも人それぞれ考え方があったのがわかりました

③振り返りのフォームの回答を大型モニターで提示し、旋律のよさについて記述している表現を価値づけ、見方・考え方を共有する。



【主体的・対話的で深い学びに向かうための指導の工夫】

「この曲をどのように表現したいか」という見通しを持ち、演奏や鑑賞の後の振り返りでは「自分の感じ方がどう変わったか」「技能がどう向上したか」について、言語化できているものを紹介し、次の時間の課題につなげられるようにした。

【資質・能力が育成され深い学びに向かおうとしている子供の姿】

友だちと演奏の「よい点」や「工夫」を伝え合い、試行錯誤した後、自分の感じ方や表現の仕方がどう変わったかを客観的に振り返ることができた。そうすることで、旋律が持つ美しさを味わい、自分の心情と結びつけようとする姿が見られた。

【学校名】 大阪市立姫里学校（大阪府）

大阪市立姫里小学校 第6学年 教科：国語「プレゼンテーションをしよう」

■単元の目標

自分たちの学校生活をよりよくするための工夫を考え、資料を使ってプレゼンテーションで提案することができる

■資質・能力が育成され「深い学び」に向かおうとしている子供の姿（第5小単元）

【学習活動の場面】

自分たちの考えを伝えるために効果的な情報を選び、全体の構成や資料の使い方、プレゼンテーションソフトの特徴を活かしてスライドのデザインや効果を考え作成する。発表を聞き合い、フォームに振り返りを入力する。

【主体的・対話的で深い学びを実現する具体的な学習活動】

【導入】

- 自分たちの学校生活でよりよくしたいことについて話し合う。
- 「1年生と仲よくなるために遠足に行くとしたらどこがいいか」をテーマにプレゼンテーションを作成することを確認する。

【展開】

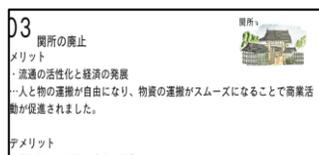
- 行先や活動について情報を集める。
- 集めた情報を整理してどのような提案ができるか話し合う。
- プレゼンテーションの構成を考える。
- プレゼンテーションを行い、自分たちの発表と比べて共感するところや納得できるところを伝え合う。

【追加：個別最適な学びとして】

- 学習したことを活かして社会科「戦国武将に仕えるなら誰がよいか」をテーマにプレゼンテーションを行う。
- 各グループの発表を聞いて、自分ほどの戦国武将に仕えるか伝え合う。

【終末】

- 聞き手に分かりやすく伝えるために、資料やプレゼンテーションをどのように工夫したかを振り返る。



■GIGA端末とクラウド環境の効果的な活用と指導上の工夫

①スライド作成のポイントとして、文字量や配色など、効果的に伝えるための視点を助言する。



②クラウド上のスライドを班全員が同時に操作できるようにしておくことで、効率よく作業が行えたり互いに見直したりすることができる。



③「アドバイス」や「振り返り」をスプレッドシートに入力することで、相互参照できるようにする。

【主体的・対話的で深い学びに向うための指導の工夫】

他の班の発表の際は、自分たちの発表と比べて共感することや納得することを考えながら聞き、共通点をもとに聞き手に伝わるプレゼンテーションについて考えさせた。

【資質・能力が育成され深い学びに向かおうとしている子供の姿】

1年生の思いや願い、発達段階に配慮するなど、多角的な視点でプレゼンテーションを作成しようとする姿が見られた。さらに、目的に応じて情報を取捨選択したり、複数の情報を関連づけたりするなど、友だちのアドバイスをもとに試行錯誤することができた。

【学校名】 大阪市立姫里学校（大阪府）

【家庭学習】 日常的な端末持ち帰りで「個別最適な学び」を継続 ～学び続ける子どもを育てる家庭学習～

- ① Classroomから学習内容を確認。
- ② 必要な資料(動画・板書の写真など)を用いて家庭学習(技能の習得・授業の振り返り)に取り組む。
- ③ 自己評価する。
- ④ 学習の成果を「課題」で提出。
- ⑤ 次の授業の準備に活かす。

児童の反応



自分の中で一番の音読を先生や友だちに聞いてもらえるのがうれしいです。



しっかり準備したから、次の日の授業が楽しみです。



時間と空間が自由な学びを

リコーダー演奏や歌唱、音読などを動画で提出するときは、自分が納得できるまで時間をかけて練習することができるため、記録を比較しながら「上手になっている」という学びの変容を自分自身で実感することができる。また、体育では、撮影した動画を家庭で振り返ることで、授業時の練習時間を確保することができる。

RO7 6年2組
リコーダー「カノン」
2025/12/09

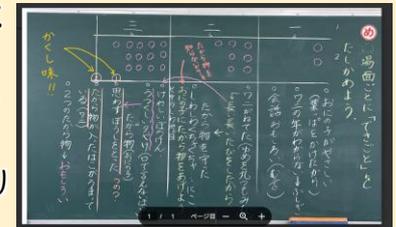
RO7 3年2組
④とび箱運動(12月11日(木))
2025/12/11

着地は、難しかったけど前転は、上手く行ったと思います。おへソを見て前転して、もっとまくなる(見える)ために踏み台をふみ、おシリを上げて、前転し、これから誰にも負けないくらいまくなりたいです。



授業⇔家庭学習をシームレスに

板書の写真を共有することで、学習したことを確認しながら課題に取り組むなど、授業の振り返りがいつでもどこでもできる。また、発展的な課題に取り組むなど、学びがつながる♪



取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

練習時間が授業中に限られていたり、友だちや教員の前で発表することが苦手であったりと、授業の展開によって、本来の力が発揮できない子どももいます。それに対し、家庭学習では、**自分が納得できるまで時間をかけて練習したり、落ち着いた課題に取り組んだりできます**。家庭での取組の成果をデータで提出させることで、子ども一人一人の本来の能力をもとに評価することができました。「家庭学習…ドリル、プリント、ノート」にとどまらず、**児童が主体的に学ぶために有効な学習方略として、動画や写真を教材として共有するなどクラウド環境を十全に生かしました**。

【校務DX】子どもと創る校長講話 ～児童朝会×フォームでテーマを自分事に～

児童の思いをフォームで見える化

- ① 児童朝会（校長講話）で次回のテーマを伝達。
- ② 児童の思いをGoogleフォームで集約。
- ③ スプレッドシート、テキストマイニング、画像生成AI等を使って資料を作成。
- ④ 作成した資料を活用して、児童朝会等でテーマについて講話。
- ⑤ 作成した資料や児童の質問に対する回答を玄関や廊下に掲示したりClassroomに投稿したりする。

校長先生より



全児童の思いを短時間に収集・集計することができ、一人一人の思いをもとに資料を作成して話せるのがいいです。



1 テーマの提示と情報収集

全学級のClassroomにフォームを投稿し、全児童にすばやく周知。



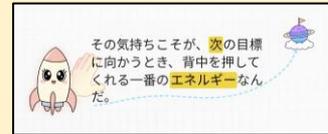
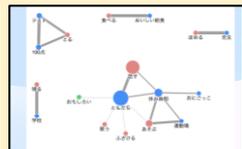
2 情報の整理と資料の作成

スプレッドシートを教職員にも共有。



3 情報の「発信・伝達」

作成した資料をもとに、児童朝会でテーマについて話す。さらに、作成した資料や児童の質問・回答をClassroomに投稿したり、学校のディスプレイに映すことで、いつでも児童が振り返ることができるようにする。



取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

教員からの話は児童への一方通行になりがちで、話のねらいが児童にどう伝わり、何が心に残ったのかがわからないことが多いですが、GIGA環境では、教員と児童が双方向で情報共有できるようになり、子どもたちの思いも可視化できます。児童朝会の講話だけで終わらず、児童の声を「見える化」した資料を教室や玄関などに掲示することで、様々な場面で振り返ることができます。何よりも児童は**自分の思いが教員や全児童に伝わることを実感し、さらに自分の思いを表現しようとする意欲につながります。**

【校務DX】 Classroomなど汎用ツールを用いた教員研修の取組及び教員の情報共有



「校務・研修・授業」の三位一体改革

- ① 研究協議会ではClassroomやスプレッドシートなど、汎用性の高いソフトウェアを活用して意見の収集・整理・共有による議論を行う。
 - ➔ 研究協議会の充実と教員のスキル向上の一体化
- ② 研究協議会で体験したGIGA環境を校務でも活用。
 - ➔ 教員が互いの知識や実践を時間、空間を制限せずに共有
 - ➔ 事務負担の軽減と指導力の向上



教職員の反応



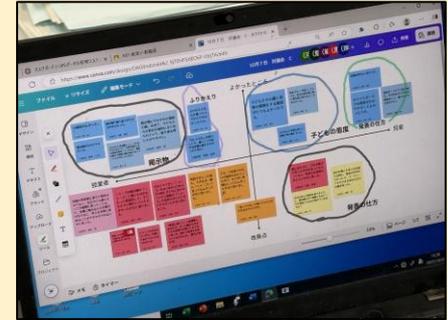
クラウド環境を活用することで、事務作業や情報共有の効率化・改革が実現できることを実感しました。



教員研修の充実

研究協議会では共有されたホワイトボードを活用し、成果と課題を色分けして付箋に入力し討議を進めた。協議した内容は、クラウドに保管し蓄積していく。

➔授業での活用も広がり、教員間の教材共有も効率化♪



クラウド環境による情報・実践の共有

Classroomやドライブを活用して、振り返りシート作成用フォーム、情報共有（校務・授業）用スプレッドシートのテンプレート、役立つ情報サイトなど教職員間で情報や教材（実践）を共有する。



取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

Classroomやドライブを活用することで、教職員間で教材などを迅速に共有できるだけでなく、活用方法や児童の学びなど具体的な実践内容も共有することができます。また、研究協議会では、多くの質問や意見を容易に集約・整理でき、充実した協議を行うことができます。協議内容をクラウドで共有することで、誰もがいつでも何度でも確認することができ、指導力の向上につながります。このように、汎用ツール（Classroomやスプレッドシートなど）やクラウド環境を「普段使い」することで、情報の共有や管理を円滑にし、事務負担の軽減や教員のスキル向上につながっています。